

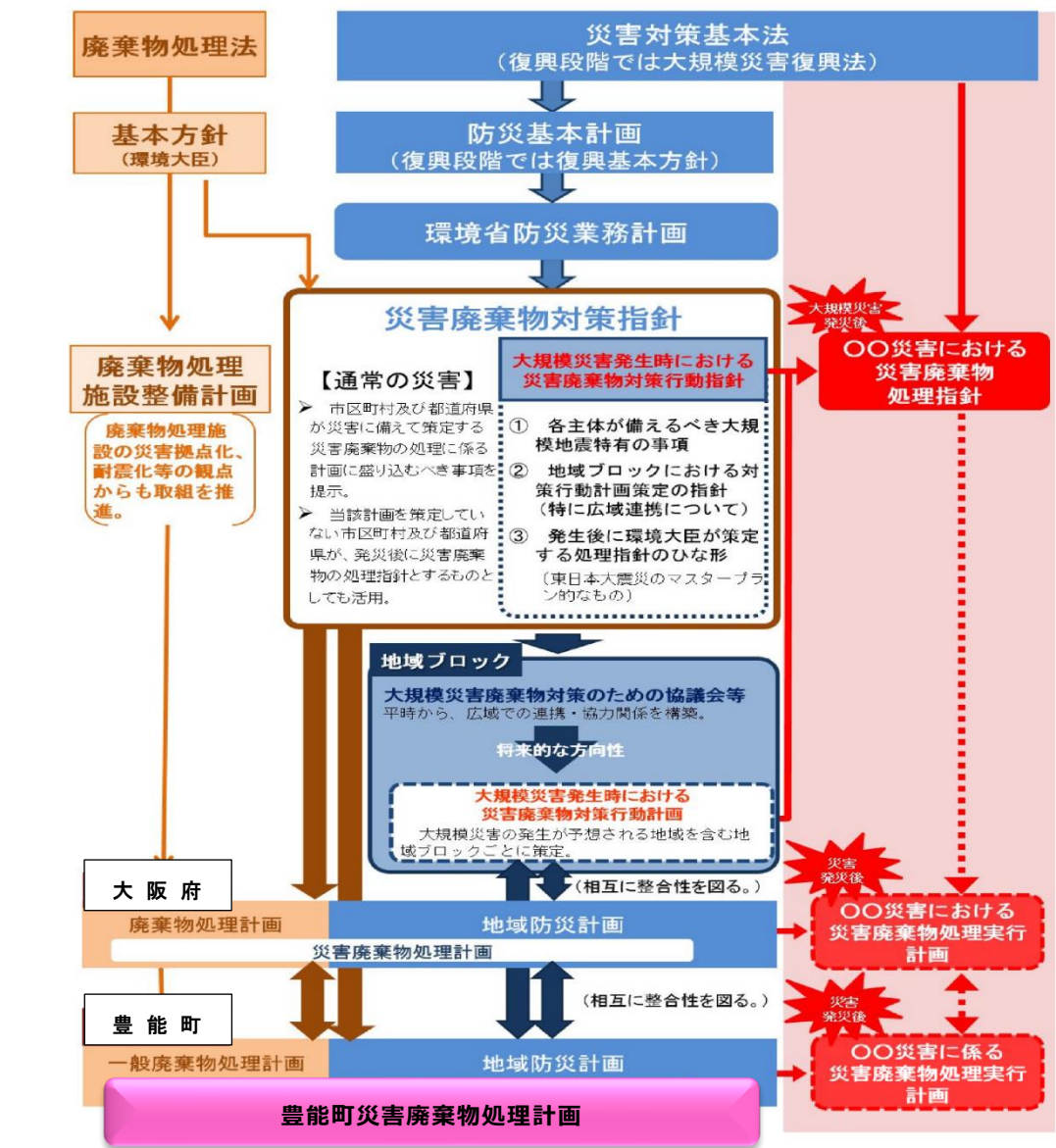
豊能町災害廃棄物処理計画 【概要版】

■計画策定の目的と位置づけ

本計画は、災害発生時の状況に即した災害廃棄物処理の具体的な業務内容を示すことにより、災害廃棄物の適正かつ円滑な処理の実施を目指すものである。

本計画は、環境省の定める「災害廃棄物対策指針」に基づき、大阪府災害廃棄物処理計画との整合性を図りつつ、災害廃棄物処理に関する豊能町の基本的な考え方と具体的な対応方策を示すものであり、災害廃棄物処理に係る基本計画として位置付けられる。

また、「豊能町地域防災計画」及び本町の一般廃棄物処理に係る基本的な計画である「第2次豊能町ごみ処理基本計画」を災害廃棄物処理という側面から補完するものである。



■対象とする災害

本計画では、「豊能町地域防災計画」の中で想定されている地震の中でも特に被害の大きい「有馬高槻断層帯地震」を対象に、災害廃棄物の検討を行う。

項目	内容
予想規模	震度6強
建物全壊棟数	94棟（全棟に対する割合 1.1％）
建物半壊棟数	216棟（全棟に対する割合 2.5％）
避難人口（最大）	252人

■対象とする災害廃棄物

災害廃棄物は一般廃棄物であるため、本町が処理の主体を担う。

地震や水害等の災害によって発生する廃棄物	木くず・コンクリートがら等・瓦くず・金属くず・可燃物・不燃物 ・廃家電・廃自動車等・腐敗性廃棄物・有害廃棄物・堆積物・その他適正処理困難物
生活ごみ	生活ごみ・避難所ごみ・し尿

■災害廃棄物処理の基本方針

基本方針	内容
衛生的かつ迅速な処理	大規模災害時に大量に発生する廃棄物について、生活環境の保全及び公衆衛生上の支障が無いよう、適正な処理を確保しつつ、円滑かつ迅速に処理する。状況に応じて可能な限り短期間での処理を目指す。
分別・再生利用の推進	災害廃棄物の埋立処分量を削減するため、分別を徹底し、再生利用、再資源化を推進する。
処理の協力・支援、連携	本町による自己処理を原則とするが、自己処理が困難であると判断した場合は、大阪府や国、地方自治体及び民間事業者等の協力・支援を受けて処理する。
環境に配慮した処理	災害廃棄物の処理現場の周辺環境等に十分配慮して処理を行う。特に建築物解体の際のアスベスト飛散防止対策、野焼きの防止、緊急処理施設におけるダイオキシン類対策等に配慮する。
安全作業の確保	災害時の廃棄物処理は、ごみの組成・量の違い、危険物の混入などに伴い、通常業務と異なることが想定されるため、作業の安全性の確保を図る。

■自衛隊・警察・消防との連携

発災直後は、人命救助、被災者の安全確保を最優先とし、ライフラインの確保のための道路啓開等で発生した災害廃棄物の撤去が迅速に行えるよう、道路担当部署と連携するほか、災害対策本部を通じた自衛隊、警察、消防等との連携方法について調整する。

■市町村等、都道府県及び国の協力・支援

他市町村等、都道府県による協力・支援については、「北摂7市3町及び関係団体による災害時等廃棄物相互支援協定」等の予め締結している災害協定にもとづき、町内の情勢を正確に把握し、必要な支援等についての的確に要請できるようにする。

協力・支援体制の構築にあたっては、D.Waste-Net（災害廃棄物処理支援ネットワーク）も活用する。

また、災害廃棄物処理業務を遂行する上で、町の職員が不足する場合は、府に要請（従事する業務、人数、派遣期間等）し、府職員や他の市町村職員等の派遣について協議・調整をしてもらう。

■住民等への啓発・広報

災害廃棄物の処理を適正かつ円滑に進めるためには、住民の理解が重要である。特に仮置場の設置・運営、ごみの分別徹底、便乗ごみの排出防止等においては、周知すべき情報を早期に分かりやすく提供する。

情報伝達手段としては、ホームページ、たんぼぼメール、防災行政無線、広報紙、広報車、説明会、回覧板、避難所への掲示等を、被災状況や情報内容に応じて活用する。

The flowchart illustrates the basic flow of disaster waste management in the town. It begins with a vertical bar on the left labeled '発生 災' (Disaster Occurrence). The process starts with '発生量' (Occurrence Volume), leading to a box: '実態を踏まえ対応レベルを判断するため、事前予測値の修正や新たな試算' (To determine the response level based on the actual situation, correction of pre-prediction values or new estimates). This leads to '実行計画のための精査' (Detailed review for the execution plan), which then leads to '処理における処理量や残量のモニタリングや空撮等による進捗管理' (Progress management using monitoring of processing volume or residual volume, aerial photography, etc. during processing). A large vertical bar on the right is labeled '処理 終了' (Processing Completed).

The main flow of waste management is shown in a large box. It starts with '大量の災害廃棄物が発生' (Large amount of disaster waste generated). This leads to '一次仮置場 設置場所選定' (Selection of location for primary temporary storage site). This leads to '一次仮置場 設置・受入' (Primary temporary storage site establishment and reception). From here, a dashed arrow labeled '粗選別' (Rough sorting) leads to '二次仮置場 設置・受入' (Secondary temporary storage site establishment and reception). A dashed arrow labeled '道路啓開' (Road opening) leads to '分別' (Separation). This leads to '二次仮置場 設置場所選定' (Selection of location for secondary temporary storage site). A large arrow labeled '収集・運搬' (Collection and transport) leads to the final processing stage.

The final processing stage is shown in a box with several options: 'リユース リサイクル' (Reuse/Recycle), '中間処理 (破碎)' (Intermediate processing (crushing)), '中間処理 (焼却)' (Intermediate processing (incineration)), and '広域処理 発生量により支援要請' (Wide-area processing, request for support depending on occurrence volume). Dashed arrows indicate connections between '中間処理 (破碎)' and '仮設焼却炉' (Temporary incinerator), and between '中間処理 (焼却)' and '最終処分場' (Final disposal site).

At the bottom, a box labeled 'し尿・生活排水・生活ごみへの緊急時対応' (Emergency response to sewage, domestic wastewater, and domestic waste) is connected to the main flow.

災害種別	建物の解体由来（千t）					合計
	可燃物	不燃物	コンクリートがら	柱角材	金属	
有馬高槻断層帯地震	0.7	3.6	5.9	1.9	0.1	12.2

	1 年目		2 年目		3 年目	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
仮置場設置						
災害廃棄物の搬入						
災害廃棄物の処理						
仮置場の撤去						

被災現場

破砕選別後の廃棄物組成

種類	数量	割合
①可燃物	0.7千t	5.4%
②不燃物	3.6千t	30.0%
③コンクリートがら	5.9千t	48.5%
④角柱材	1.9千t	15.3%
⑤金属	0.1千t	0.8%
⑥合計(Σ①～⑤)	12.2千t	100.0%

一般廃棄物処理施設

災害時対応余力
【国崎クリーンセンター】
5.3千t
処理量、処分率
⑦ 0.7千t(可燃物①の100%)
全廃棄物量の5.4%(⑦ / ⑥)

焼却灰
⑧ 0.1千t
(焼却量⑦の20%)

仮置場

災害時対応余力
【最終処分場・フェニックス】
3.7千t
処理量 ⑨ 0.0千t
※処分にかかる協議が必要

要検討

【広域処理等】
⑩ 0.0千t(① - ⑦)
全廃棄物量の0.0%(⑩ / ⑥)
産業廃棄物処理施設
仮設処理施設
府内・府外処理施設での広域処理

【広域処理等】
⑪ 3.7千t(② + ⑧ - ⑨)
全廃棄物量の30.0%(⑪ / ⑥)
産業廃棄物処理施設
府内・府外処理施設での広域処理

【リサイクル】
⑫ 7.9千t(③ + ④ + ⑤)
全廃棄物量の64.6%(⑫ / ⑥)

災害種別	仮置場必要面積 (ha)		合計
	可燃物	不燃物・コンクリートがら等	
有馬高槻断層帯地震	0.2	0.3	0.5